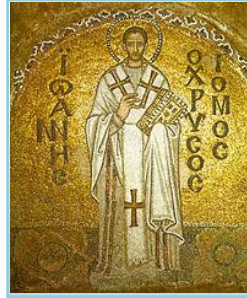


1月27日

## 主教教会博士ヨハネ・クリソストム

Ιωάννης ὁ Χρυσόστομος  
(347頃～407.9.14)  
～四世紀の代表的教父～



「聖金口イオアン」

アギア・ソフィア大聖堂内の  
アイコン

人名辞典等では、ヨハネ・クリソストムと表記される。彼はコンスタンティノポリスの主教で、4世紀を代表する教父である。

彼はシリアのアンティオキアに生まれるが、彼の母は20歳の時に未亡人となる。その後、母は子どもの教育に一生懸命に力を尽くす。

そしてタルソスのディオドロスに神学を、リバニオスに修辞学を学び、ギリシア哲学の素養を身につけたクリソストムは、20歳の時にはすでに雄弁家として知られていた。そして早くから修道生活を志し、隠修士としての修業を積むが病気となり、自分の町へと戻る。

386年、アンティオキアで聖職となったクリソストムは説教がうまく、司教の右腕として活躍する。のちに6世紀には黄金の口(金口)と呼ばれ、その説教力が評価される。

彼はアンティオキア派の伝統に従い字句通りの聖書解釈を行った。そして旧約・新約の主要部分について彼が説教の形でおこなった釈義は、主著としてまとめられていく。

彼の説教の力は東ローマ帝国の皇帝と総理大臣にも伝わり、その雄弁さを自分たちのために用いようとした彼らによってクリソストムはコンスタンティノポリスの主教となるが、彼は教会政治家と

しての力量は欠けていた。例えば、貧富の差がある教会で、貧しい人々を救うように説教をし富裕層の反感を買ったりもした。

そして彼はアレクサンドリア派とアンティオキア派の抗争に巻き込まれていくのだが、首都の教会を立て直していくうちに多数の敵をつくってしまう。

そしてアレクサンドリアの主教テオフィロスはサラミスの主教エピファニオスをそそのかし、403年のカルケドン「かしの木」会議においてクリソストムを告発する。その告発の理由はオリゲネス異端と皇帝・皇妃への不敬というものであったが、これは冤罪であったとされる。

クリソストムは二度にわたって追放され、ポントスで衰弱死するが、東方正教会では最も尊敬されている教父の一人である。(Y)

<特禱>

全能の神よ、あなたは主のしもべ、主教教会博士ヨハネ・クリソストムの教えによって公会を照らして下さいました。どうか天の恵みをもって公会をますます豊かにし、忠実な証びとを起して下さい。その生活と教えに倣い、わたしたちがすべての人に救いの真理を宣べ伝えることができますように、主イエス・キリストによってお願いいたします。

アーメン